

神戸商工だより

3
2011

The Kobe Chamber of Commerce and Industry
<http://www.kobe-cci.or.jp/>



特集

ヘルスケア(健康・医療)分野における 新たなビジネスチャンス

NEWS》 KOBEDesignコンペティション
企業とデザイナーをマッチング

食品を核にした 健康発信ステーションづくり

株式会社ドクターミール

病気の治療や予防のための食事指導の大切さを説き、食生活のコンサルティング事業を行うドクターミール。近年は、食品を核にフィットネスを備えた施設も運営する。代表取締役の小野裕美さんは大学院研究生として栄養学の研究をする立場を生かし、医療機関、大学、企業の連携による健康サービスの開発支援も視野に入れている。



店舗では管理栄養士による栄養指導が行われている

病者用食品などを独自に開発

1995年に起きた阪神・淡路大震災は、専業主婦だった小野さんの人生に転機をもたらした。腎臓病を患う人たちが食事療法を受けられず、症状を悪化させる現状を目の当たりにし、病者用食品が購入でき、栄養指導が受けられる場の必要性を痛感した。小野さんはかつて病院で働いていた経験があった。「医療保険点数の範囲での栄養指導には限界があります。栄養士が、医療の枠を超えた食事療法を発信できる店をつくりたいと思いました」

患者に的確な栄養指導を行う役割を担う臨床栄養士が活躍できる場がない現状を変えたいとも思っていた小野さんは97年、三宮の家電量販店内（現在はさんプラザ1F）にヘルスケア食品専門店「Dr.ミール」をオープンした。

店に立つのは全員、管理栄養士の資格を持つ女性たちだ。医療機関とも提携し、腎臓病やクローン病など病態や症状に応じて成分を調製した食品をそろえ、じっくり時間をかけて食事指導を行ってから販売をする。「病者用食品はそのままではなかなかおいしく食

べられないので、メニューを考えて味も楽しめるように提案しています」と小野さん。そのような真摯な姿勢が評判を呼び、口コミで顧客が増えていった。腎臓病患者向けに低タンパクのパンやごはんをメーカーに掛け合せて商品化。また、がん治療などの副作用で悩む人向けに、オーダーメイドの医療用かつらも作った。「量が出る商品でないだけに、理解のあるメーカーにこちらの思いを伝えながら形にしています」

医学産をつなぎ、商品・サービスの開発を

近年、テレビなどのメディアで同社で扱うさまざまな食品が体にいいと喧伝され、通販サイトにも購入の問い合わせが寄せられるという。「根拠のない情報についてはその旨を説明し、あらためて購入の意思を確認しています」と小野さん。未病対策に「食事にプラスアルファの補い」としてのサプリメントの役割を発信することも、管理栄養士の仕事だと考えている。「商売は下手かもしれませんが、だからこそ信頼も得られる」と、顧客のリピート率は80%を超えるという。

4年前には、須磨区内に、有酸素運動

と筋肉運動の繰り返しで身体年齢の若返りを目指すメディカルフィットネス施設をオープンした。「健康を保つには、食事と運動、癒やしが必要。このような健康発信ステーションを各地域に増やしていきたいです」

小野さんが現在力を注ぐのが、自身が通う大学院などの研究成果を基にした提案だ。その一つが葉酸推奨プロジェクト。「妊婦に必要な栄養素として知られている葉酸ですが、脳梗塞やアルツハイマー病、うつなどにも深くかかわることが知られており、国も摂取を勧めています」と葉酸の入った商品も開発している。「医療機関、大学、そして企業をつなぐ役割を果たし、商品やサービスの開発のサポートにも力を入れていきたいです」と目標を話す。

【会社データ】

株式会社ドクターミール

事業内容：保健機能食品（病者用食品、サプリメントなど）の販売、栄養コンサルティング業務など

設立：1997年11月

代表取締役：小野裕美

所在地：神戸市須磨区関守町1-1-14

電話：078-734-3131

http://www.dr-meal.com/